



## シジュウカラは 1羽、2羽、エゾリスは？ エゾシカは？ 生き物の数え方

一般的な生き物の数え方＝助数詞のお話です。番外編として生き物以外もいくつか取り上げます。

- 鳥は「1羽、2羽」、「1匹、2匹」ではありません。
- 鳥の文学的な数え方として、「1翼、2翼（よく）」があります。
- 鳥は、雌雄1羽ずつ2羽一組の場合「1番、2番（つがい）」または「1ペア、2ペア」と数えます。
- 「十羽」なんと読む？ 「じっば」。変換でも出ます。ただし今では「じゅっば」も広く使われています。「十傑」「十指」「十戒」も本来はそれぞれ「じっけつ」「じっし」「じっかい」です。



- なお、「わ」と読む場合は数がいくつになっても変わりません。
- その他、3羽は「さんば」、6羽は「ろっば」、100羽は「ひゃっぱ」など特殊な読み方もあります。秀でた3人のことは「三羽鳥＝さんばがらす」、「さんわがらす」ではありません。
  - 哺乳類は、人間より小さい動物を「匹」、大きい動物を「頭」で数えます。エゾリスは「1匹、2匹」、エゾシカは「1頭、2頭」です。ただし、大きさに関係なく「頭」を使う人も少なからずいます。眠れない時に数える羊は「1匹、2匹」ですが、100kgを超える大型品種の羊もいます。
  - 犬や猫は「匹」が多いでしょうか。「多頭飼い」という言葉もありますが、これは定型句です。でも、セントバーナードは「1頭、2頭」と数える方が自然な気がしますでしょうか。もっとも、今では犬や猫を人間と同じく「1人、2人」という人も増えてきているようです。
  - ウサギは「1羽、2羽」これは長い耳が鳥の羽のように見えることからそういわれてきましたが、今では「1匹、2匹」という人の方が多いかもしれません。



- チョウは昔から「1頭、2頭」でしたが、こちらもそれを使う人は今は少数派でしょうか。
- 魚は生きている状態では「1匹、2匹」、食材となると「1尾、2尾」が一般的です。
- ヘビもカエルもクワガタもミミズも、小さな生き物は「1匹、2匹」です。
- ただし、環境アセスメントなどの公文書では、生き物を「1頭、2頭」で表します。
- 植物では、樹木「1本、2本」、花「1輪、2輪」、葉「1枚、2枚」または「1葉、2葉」、ですが、根元を含む植物全体は「1株、2株」で、木の場合も苗木ではこちらを使います。
- 生き物以外では、バイオリン「1挺、2挺（丁）」、椅子「1脚、2脚」、手袋「1双、2双」など。
- スノーシューは「1組、2組」で、「1足、2足」ではないですが、これは「靴」ではないからか？英語では"snow shoes"と複数形ですが、日本語では「スノーシュー」単数形を日本語化したものが使われています。これは「靴」を「シューズ」というのが日本でも一般的であり、「靴」との混同を避けるためにそうなったと考えられています。ただし、スノーシューを「履く」は普通に使います。※年齢を「1個上、2個下」と「個」を使うようになったのはいつの頃からだっただろうか。

## スノーシュー無料レンタルしています

森の家にてスノーシュー無料レンタルは3月いっぱい終了の予定です。  
金・土・日・祝朝10時から15時まで森の家にて受付しています。

レストハウス「ぽるく」、2025年度は4月オープン予定です。

## 旭山野鳥メモ 67 マヒワ

マヒワ Eurasian Siskin *Carduelis spinus* スズメ目アトリ科  
冬鳥。一部道内山地で繁殖。望岳台で夏にも見られる。

雄は頭部が黒く喉から胸が鮮やかな黄色。雌は全体的に薄く黄色みがかった色合い。雌雄ともに体に茶色のタテ斑が入る。

越冬期は群れで行動し、数羽から、50羽以上になることもある。「チュイー チィチィ チュビー」と朗らかな鳴き声がよく聞かれる。

旭山では今冬12月中旬に50羽以上の群れが入りそのままいつている。来訪数は年により大きく差があり、昨冬は数羽がときどき見られるだけだったが4月下旬に50羽以上が来てひと月弱ほど滞在し、その間ハルニレの種子を主に食べていた。春は5月20日過ぎまで見られる年もある。

過去に300羽以上はいただろうという年もあったが、平均値としては20~40羽といったところか。

旭山で今年はほとんどシラカンバかカラマツの種子(松ぼっくり)を食べている。シラカンバの下には種子の食べかすがたくさん落ちており、種子を包む殻が鳥が翼を広げて飛んでいるように見える(上写真)。

警戒心が強く、木の下を人が通ると一斉に飛び立って「チュリチュリ」鳴きながら辺りを旋回し、安全であれば元の木に戻り、そうでなければ別の木に移動する。雪解けから春にかけて地面に降りることもある。

囀りは朗らかで決まった旋律がないように歌う。繁殖地では聞かれるが旭山ではめったに聞かれない。

冬にレモンイエローのマヒワを見ると暖かい気持ちになる。毎年たくさん来てほしい野鳥だ。



## 2025年3月の野鳥トピックス

- シマエナガ：ほぼ毎日出ており低い位置で見られる日もあります
  - キクイタダキ：例年3月後半から観察機会が増えてきます
  - キバシリ：カラマツ林で見られていますが他所では少ないです
  - シロハラ：2月も1羽から数羽がほぼ毎日見られていました
  - ツグミ：一時より数は減りましたが普通に見られています
  - アトリ：今冬は数羽が園内で時々見られています(右写真 雌)
  - シメ：「作業員詰所」「遊具広場」「ミュンヘンの森」で見られます
  - ウソ：声は聞かれていますが見る機会はまだまだ少ないです
  - マヒワ：群れが園内でよく見られています
  - カワラヒワ：今冬はほぼ毎日数羽見られています
  - イカル：本来夏鳥ですが今冬はずっと見られています
  - ミヤマカケス：今冬は来ていません
  - クマゲラ：園内での観察機会は比較的多いです
  - ヤマゲラ：春に向け観察情報が増えてきました
- ※3月下旬から夏鳥が渡って来ます。最初はホオジロか、キジバト、ヤマシギ、それともモズか？



## 今年の春はキタコブシの花があまり咲かない？

春の山で真っ先に白い花が咲くキタコブシが、今年はあまり花が咲かないかもしれません。

キタコブシは、花の冬芽は毛筆のように大きく(写真左)、葉が出る冬芽は小さいです(写真左から2枚目)。

12月には冬芽が形作られ、花の冬芽のようすを見れば、翌春どれだけ花が咲くかが分かります。

今年の春は・・・残念ながら花の冬芽がほとんど見られず、花もほとんど咲かないでしょう。

森の家の前のキタコブシ(写真右)、見える範囲には花芽がありません。少し寂しい春になるかも。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第137号 2025(令和7)年3月9日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311(金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351